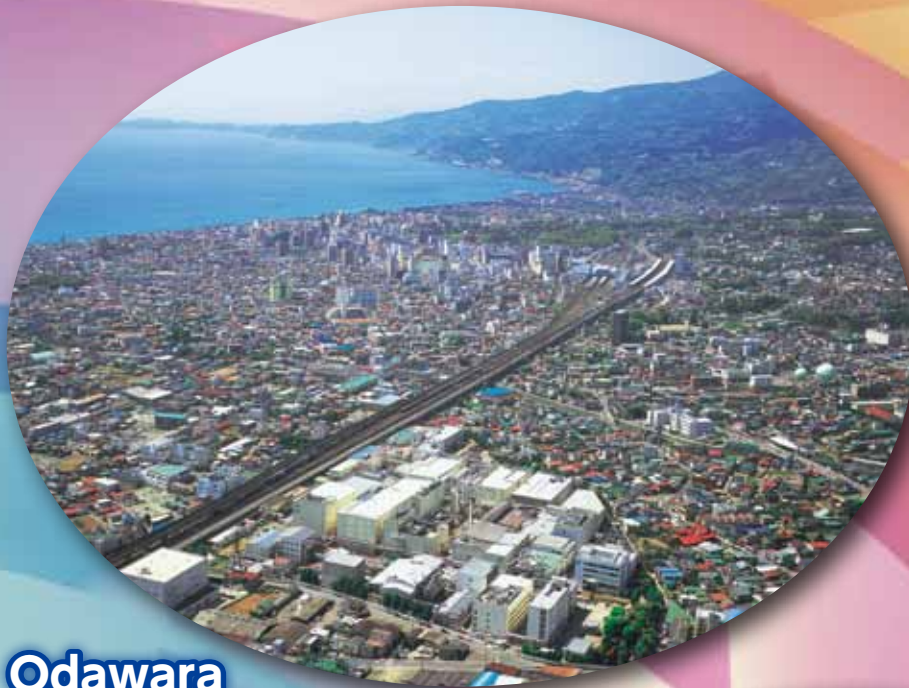


富士フイルム 神奈川工場 サステナビリティレポート 2017



Odawara



Ashigara

はじめに

富士フィルム神奈川工場は富士写真フィルムとして創業した地であり、生産品目は時代の流れと共に変わってきましたが、80余年経った現在でも弊社主力工場として数多くの製品を世の中に送り出しております。これも私どもの製品をご利用いただいておりますお客様をはじめ、この神奈川工場での生産活動へのご理解、ご協力をいただいている地域の皆様、関係会社の皆様あってのことと、改めてステークホルダーの方々へお礼申し上げます。

生産活動

2005年社名から「写真」の文字をなくし「富士フィルム株式会社」への変更とほぼ同時に小田原工場と足柄工場を統合し神奈川工場としました。現在の生産品は、その場で写真がみられるインスタント写真「チェキ」などの写真感光材料、データストレージテープなどの記録メディア製品、液晶ディスプレイ用偏光板保護フィルム「フジタック」などのディスプレイ用材料などがあり、また「エクスクリア（透明導電性フィルム）」はタッチパネル部材として広く市場に導入され、主力製品として育ってきました。これに続く新規製品の開発・生産を更に加速して市場導入していくことが今後の最大の経営課題です。また国内外で好評なインスタント写真には、デジタルネイティブの多様なニーズに応えられるようにスクエアフォーマットを新たに導入しました。

環境保全活動

このように神奈川工場での生産品も時代の要請により大きく変化してきましたが、「地球・人類・企業の持続可能な発展を目指し、企業体質・製品・サービスにおける高い環境品質を実現して、顧客満足達成する」ことを趣旨とする「富士フィルムグループグリーンポリシー」を継続することには変わりありません。

これらのポリシーを実現するしくみとして、神奈川工場では、2009年より「安全、環境、品質」の3つのマネジメントシステムを統合して運用する統合マネジメントシステム（IMS）を導入しました。統合運用することで経営環境の変化に対応した重点施策を一丸となって推進する『リスクマネジメント機能』の強化を図るものです。

また、お客様に価値ある機能を適正な価格で提供するためにも、エネルギーコストの削減が重要な課題です。2013年より全社エネルギー戦略推進委員会活動をスタートさせ神奈川工場でも毎年大きな省エネ成果を上げており、2017年以降も発想を転換し、着眼点を変えて更なる省エネに取り組んでいきます。

今後の課題

昨年4月の熊本地震や最近各地で繰り返される自然災害の猛威には、神奈川工場としても多くの学ぶべき点があります。地域行政との連携、事業継続計画(Business Continuity Planning)の見直し、住民の皆様や関係会社と一緒にあった災害発生時の対策準備を進めますが、特に非常事態時の環境保全については訓練も含めて強化を進めてまいります。

社会環境・経済環境を始めとした世界的な潮流の大きな変化にも迅速に対応し、継続的な発展を遂げるには従来のやり方を常に見直し、改善していくサイクルを速く回す必要があります。地域の皆様をはじめ、社外の皆様と今後も双方向のコミュニケーションを図りながら、更なる改善に繋がりたいと考えています。皆様からのご指摘、ご意見、ご指導を賜れば幸いです。

2017年7月

富士フィルム株式会社
神奈川工場長

金武 哲史



目次

ごあいさつ	1
神奈川工場の概要・環境負荷	2
神奈川事業場方針	3
2016～2017 活動のTopics	
環境保全・労働安全衛生	4
環境と安全の従業員教育	
《特集》 新たな価値の創出に向けて	
「モノづくり神奈川2016」開催	5・6
環境保全活動 大気・揮発性有機溶剤・	
廃棄物の管理	7
水質・PRTR調査結果	8
省エネルギー・CO ₂ 排出量の削減	9
地域とのコミュニケーション	10

■編集方針

本レポートは富士フィルム株式会社神奈川工場と当工場敷地内にある関連組織およびグループ会社の環境・安全および地域コミュニケーションについての活動と2016年度における実績を中心に掲載し、私たちの取り組みを読者の皆様にご理解いただくとともに取り組みの更なる向上を目指し、読者の方々とコミュニケーションを図ることを目的に毎年発行しています。

本年度の特集は、神奈川工場の強みを活かした新たな価値を創出する目的で開催した「モノづくり神奈川」について掲載いたしました。

読者の皆様には、巻末にある連絡先までご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

神奈川県工場の概要

	小田原サイト	足柄サイト
所在地	〒250-0001 神奈川県小田原市扇町2-12-1	〒250-0193 神奈川県南足柄市中沼210
創立	1938年6月15日	1934年1月20日
生産金額	598 億円	670 億円
敷地面積	110 千㎡	326 千㎡
建物面積	46 千㎡	152 千㎡
延床面積	126 千㎡	443 千㎡
従業員数*	1,068 人	2,241 人
主要製品	<ul style="list-style-type: none"> ・ WVフィルム 液晶ディスプレイ用視野角拡大フィルム ・ 記録メディア コンピューター用バックアップテープ 放送用ビデオテープ など ・ 化学薬品 WVフィルム用/写真用/外販用 硝酸銀 	<ul style="list-style-type: none"> ・ TACフィルム 液晶ディスプレイ用偏光板保護フィルム ・ 写真フィルムと印画紙 インスタント用/一般アマチュア用/プロ用 ・ 写真感光材料 製版用/医療用/事務用/映画用/産業用 ・ 体外診断薬および医療機器 ・ 透明導電性フィルム

*2017年3月現在 サイト内にあるグループ会社の従業員数を含む

神奈川県工場マネジメントシステム認証取得年月

	ISO9001	ISO14001	ISO9001 / ISO14001 小田原 / 足柄サイト統合	OHSAS18001 統合マネジメントシステム運用
小田原サイト	1992年10月	1996年10月	2006年12月	2009年11月
足柄サイト	1992年9月	1996年12月		

神奈川県工場の環境負荷 (2016年度)

エネルギー・井水

	小田原サイト	足柄サイト
電力-買電	11,290 千kWh/年	84,158 千kWh/年
電力-自家発電	44,935 千kWh/年	102,384 千kWh/年
重油	—	3 KL/年
都市ガス	15,102 千Nm ³ /年	44,196 千Nm ³ /年
井水・市水	3,579 千m ³ /年	8,765 千m ³ /年

主要原材料

	小田原サイト	足柄サイト
ベースフィルム	4,593 t/年	7,984 t/年
銀	196 t/年	149 t/年
鉄	254 t/年	—
ゼラチン	—	416 t/年

大気排出

	小田原サイト	足柄サイト
VOC	26.3 t/年	184.3 t/年
CO ₂	38.0 千t/年	136.4 千t/年
SO _x	—	0.0 t/年
NO _x	28.0 t/年	20.6 t/年
ばいじん	—	0.4 t/年

排水量

	小田原サイト	足柄サイト
公共河川	3,906 千m ³ /年	7,745 千m ³ /年
下水道	163 千m ³ /年	1,365 千m ³ /年

廃棄物量

	小田原サイト	足柄サイト
リサイクル	1,226 t/年	4,016 t/年
直接埋立+単純焼却	8.1 t/年	16.0 t/年

原料再生

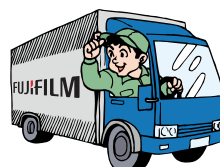
	小田原サイト	足柄サイト
銀	3.3 t/年	25.4 t/年
溶剤	686.8 t/年	—
ベースフィルム	—	260 t/年

リユース

	小田原サイト	足柄サイト
プラスチック	37.6 t/年	—



製品



2017年度 神奈川事業場方針 と 行動指針

FUJIFILM

2017年度神奈川事業場方針

**一人ひとりが変化に挑み
力を結集し 早く速く成果を上げよう!**

安全・環境・品質 行動指針

- 【安全】一人ひとりが不安全な行動を撲滅し、ゼロ災を実現しよう!
- 【環境】自職場の弱点をしっかりと捉え、環境トラブル半減を実現しよう!
- 【品質】事業環境の変化に即して標準を見直し、顧客満足度を高めよう!

2017年度 神奈川事業場方針

神奈川工場および関連組織・グループ会社を含む神奈川事業場では、創業以来生産し続けている写真フィルムに代わる新製品を成長軌道に乗せ、富士フィルムの大きな収益源としていくことが経営の最大の課題となっています。

世の中の多様化が進む中、先を見据えて一人ひとりが変化に挑む姿勢を持ち、個人・組織が連携し、課題達成に向け、スピード感を持って成果を出し、人と組織が成長することを目指して今年度の方針としました。

行動指針

事業場方針を実現する源泉は個人と組織の現場力です。安全、環境、品質活動のいずれもが業務と直結しており、トラブルを無くし、品質の高い製品を作り続けるために、具体的に行動に移しやすい行動指針を定めました。

「神奈川」事業場方針実現のしくみとして運用する「統合マネジメントシステム（神奈川IMS）」

統合マネジメントシステムの運用

神奈川事業場では、ISO9001（1992～）、ISO14001（1996～）、OHSAS18001（2009～）を認証取得し、2009年以降、これら3つのマネジメントシステムを統合マネジメントシステム（IMS）として運用しています。（IMS：Integrated Management System）

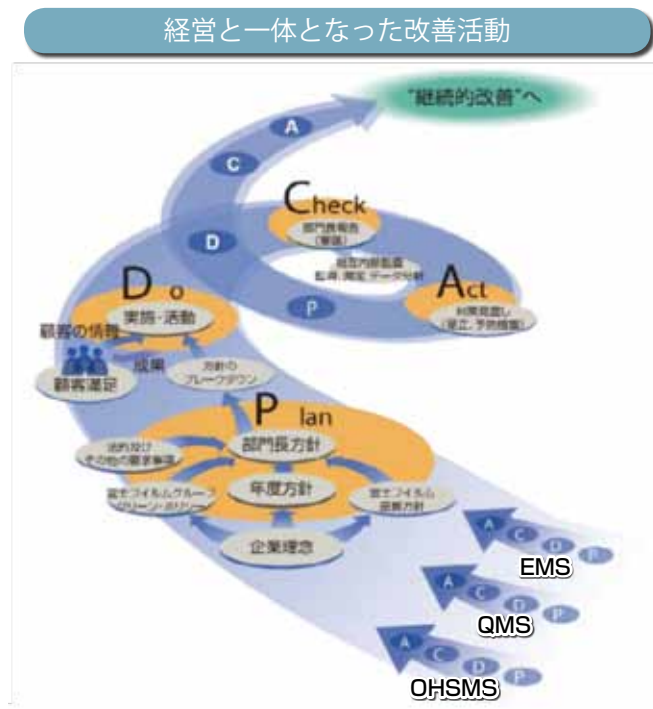
統合マネジメントシステム運用の狙い

統合マネジメントシステムでは、事業場内の関係会社を含む全部門で統一した事業場方針、行動指針を定め一丸となって業務改善に取り組みます。

統合運用することで、より経営指針と一体となった事業基盤の強化につなげるとともにシンプルで効率的な改善のしくみを実現しています。

統合マネジメントシステムの運用体制

神奈川事業場では方針や重点課題を策定しIMS活動全体を統括するIMS委員会と「安全、環境、品質」のそれぞれの軸で改善活動を推進する専門委員会を設けそれらが連携して、重点課題を推進しています。



神奈川IMS 運用体制

神奈川IMS委員会

- ・神奈川IMSの最高決議機関
方針、重点課題の決定、マネジメントレビュー

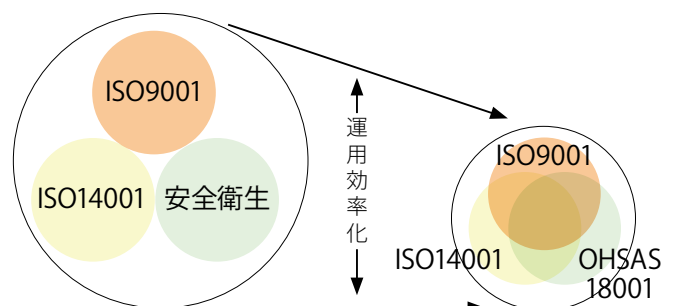
IMS専門委員会

- ・IMS安全委員会
- ・IMS環境委員会
- ・IMS品質委員会
- ・3専門委員会を設置
重点課題を3つのIMSの観点で課題展開する機関

IMS各部委員

- ・事務局からの連絡窓口
- 各部門IMSデータベース管理者

IMSによる運用の効率化



環境保全

1. 環境トラブル「0」件の継続

工場には使用している化学薬品等が漏洩することで大気・河川・土壌を汚す環境リスクが潜んでおり、工場の環境委員会が中心となり、環境リスク低減を推進しています。2016年度は、過去5年間に起きたヒヤリの原因を細かに分析し、傾向を整理して対策活動に取り組みました。環境リスクに対する従業員の意識向上を工場全体に浸透させ、2006年度以降は、環境に影響を及ぼすトラブル「0」件を継続しています。

2. 環境リスクアセスメントを活用した漏洩対策の更なるレベルアップ

神奈川工場は創業から80余年が経ち、設備の老朽化による薬品の漏洩防止策として、2015年度に環境リスクアセスメント*1を考案し導入しました。2016年度は、この手法を用いてウォークスルーし工場全体のリスク箇所を「見える化」しました。リスクが高い箇所から計画的に補修を開始し、老朽設備の改善を図っています。この活動は、社外（神奈川県環境保全協議会）でも発表し大変好評を得ました。多くの問い合わせを頂き、他社との意見交換も行っています。

*1：使用する化学薬品の危険性、使用頻度、使用量等を勘案し総合的に設備のリスクを見積もる手法

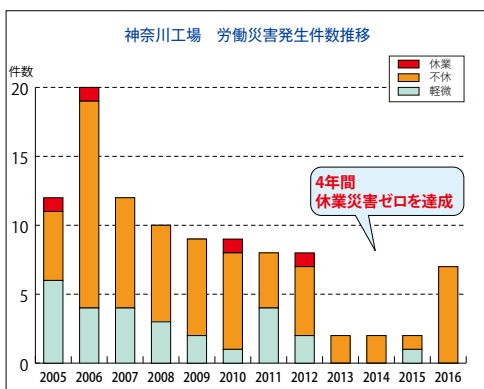


環境リスクアセスメントの社外発表の様子

労働安全衛生

1. 災害発生状況の推移：休業無災害4年間達成

リスクアセスメントによる危険源の抽出と対策、定期的な現場巡視、危険体感研修による実体験学習、5S活動の展開等の安全衛生活動を推進してきました。残念ながら躓き、ぶつかり、転倒といった不休災害は7件に増えてしまいましたが、生産設備起因の怪我はなく、2013年以降の休業災害0件を4年間継続することができました。10月には宮城県仙台市で開催された第75回 全国産業安全衛生大会の「リスクアセスメント/マネジメントシステム」分科会で事例発表を行い、多くの聴講者の関心を集めました。日常生活でも発生する怪我に対しても意識・感度を高められるようお互いに気遣う「相互助言活動」にも取り組んでいます。



2. 火災・爆発についての防火活動

小田原サイトでは、自衛消防隊による消防出初式を毎年1月におこなっています。今年も小田原消防署長、小田原市消防団を来賓に迎え、多くの従業員の前で日頃の消防訓練の凛とした消防操法と一斉放水を披露しました。事業場で行う出初式は富士フィルムグループ各社及び神奈川県西地域企業で唯一となりました。危険物取り扱い量が多く、民家に隣接する小田原サイトでは、自衛消防の精神が脈々と受け継がれています。日頃から訓練に励み、防火防災に備えて更なるスキルアップを目指しています。



消防出初式 一斉放水

環境と安全の従業員教育

環境保全と労働安全は、神奈川工場の事業活動を進めていく上で、現場力の基盤と位置付けています。そのため、毎年教育プログラムを見直し、計画的に従業員に教育を行い安全、環境に対する意識向上と行動力を培っています。

- ・2016年度環境教育では、廃棄物量の削減をテーマにeラーニング教育、環境法に関する集合教育を主に実施しました。（対象者約3,300人）
- ・2016年度安全教育では、全国安全週間を活用して相互助言に関わる安全ミーティングや繰り返される同じ危険源による災害事例教育を職場毎に実施しました。（対象者約3,300人）

新たな価値の創出に向けて「モノづくり神奈川2016」開催



1. 背景と目的

富士フイルム 神奈川工場では、伝統的な写真製品から新規商材まで、幅広い分野の生産を担っています。将来の新製品を生み出すため、神奈川工場にある技術力や生産現場の強みを活かして、新たな価値を創出することを目的に、2016年9月7日に「モノづくり神奈川2016」を開催しました。富士フイルムグループの営業から技術分野まで計800名以上が参加し、会場では参加者と説明員との間で、オープンで活発な質疑応答が交わされ、終始熱気に包まれました。

<テーマ>

変化する事業ニーズに合った品質/コスト/タイミングで製品をつくるための、これまでとは違う生産のやり方の紹介

- ① 10年前には考えられなかった生産現場での新たなやり方をオープンに発信→今までと違うやり方で、どのような新しい価値を生み出したのかを知る
- ② 作り始めたばかりの商材から、伝統的な感材製品まであらゆる製品ジェネレーションでの創意工夫を議論
→製品ジェネレーションによらない「やり方や仕組みの新しさ」を知る
- ③ 富士フイルムグループ間での新たな発見、新たな出会いを創る
→新しい、興味深い、と思えるものに出会う



2. 新たな価値の創出に向けた取り組み

“モノづくり”の切り口として、『安く』『早く』『速く』『小さく』『安全に』『これまでに無いもの』の6つの観点から、大サイズに伸ばした資料を前に説明するポスター発表、各職場から選出された口頭発表を実施しました。また、富士フイルム(株)取締役・副社長兼CTO 戸田雄三さんによる「新産業革命の主役を目指して」の特別講演を行い、工場から変革を生み出す風土を醸成してほしいという期待が工場メンバーに新たな活力を与えました。



1) ポスター発表

全部で76件の出展があり、感材技術を活かした医療用途/タッチパネル等の新規分野への応用展開や、新たな仕組みの構築等の取り組みを紹介し、活発な意見交換を通して、新たな気づきや刺激を受ける機会となりました。

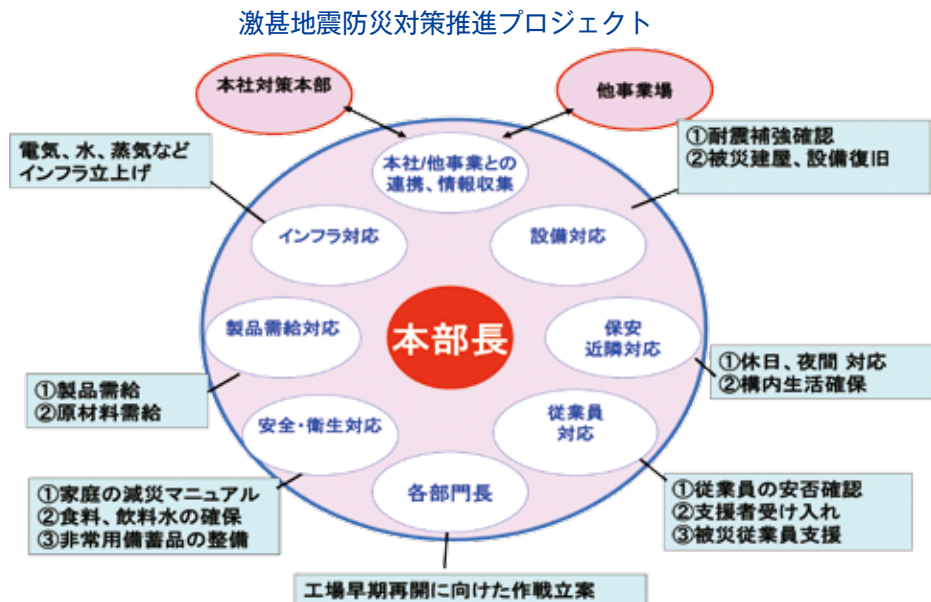
2) 口頭発表

口頭発表では神奈川/富士宮工場における活動の最新トピックス9件が紹介されました。工場技術を基盤とした事業貢献へのあり方を事例に基づいて共有し、質疑応答の際、ならびに発表後の懇談時にも熱心な議論が広がりました。

3. 安全・環境のポスター発表

1) 安全テーマ

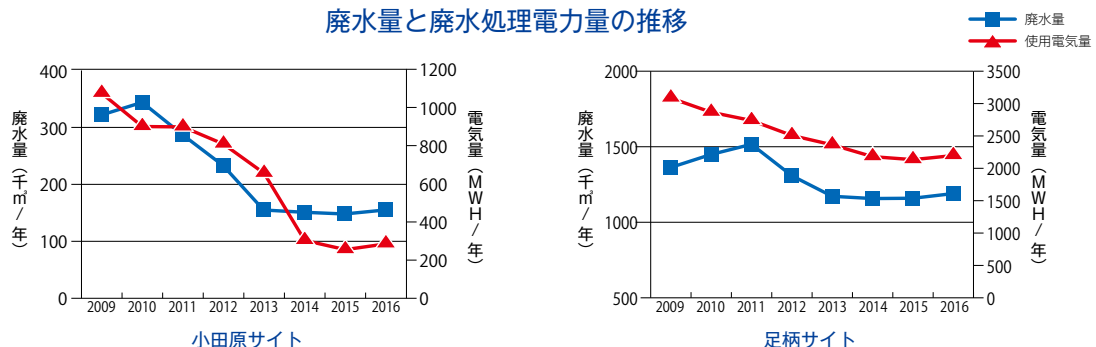
2016年4月14日、16日に発生した熊本地震で、神奈川工場から復旧支援を行った実体験から、神奈川で激大地震が発生した時、震災直後はメンバーが集まらない、一部のみに負荷が集中する、家庭での備えが大切であることなどの観点で検討するために、対策プロジェクトを関係部門協力のもとに発足しました。被害を最小限に抑え、かつ復旧立ち上げを迅速に行うための各種初動対応のガイドライン、訓練計画等を立案/実施した活動を紹介し、優秀ポスターの一つとして表彰されました。



2) 環境保全テーマ

神奈川工場は、生産効率化により足柄サイト、小田原サイトともに、廃水量が年々減少していますが、廃水処理方法は大幅に見直しがされていませんでした。「廃水処理運転の効率化」というテーマで、足柄サイトでは、2系列あった廃水処理設備を1系列に統合する、小田原サイトでは連続運転していた廃水処理を間欠運転へ変更することを実現した活動を紹介しました。この活動により使用電力を削減し環境負荷低減（CO₂削減）に貢献できました。更に、安定した効率的な運転体制も確立できコストダウンに大きく寄与しました。

廃水量と廃水処理電力量の推移



4. 今後の展開

神奈川では10年振りとなる本イベントは参加者にとって、技術の特徴や“モノづくり”の強みを改めて自覚する機会となり、また紹介した技術の活用など、工場内での新しいコミュニケーションやネットワークの広がりが生まれています。また本社、開発部門など工場外部からの参加者からも、“工場の活動を知ること、工場技術の活用や工場内のスペシャリストを巻き込んだ事業企画などの新たな発想のきっかけとなった”といった声も挙がっています。

今後は、海外工場なども含めて富士フイルムグループ全体で、新たな発見/出会い/発想を生み出す工場ならではの活動として継続開催し、より一層の現場力向上とその事業活用展開、それを支える環境に優しい安全・安心な工場を目指してまいります。

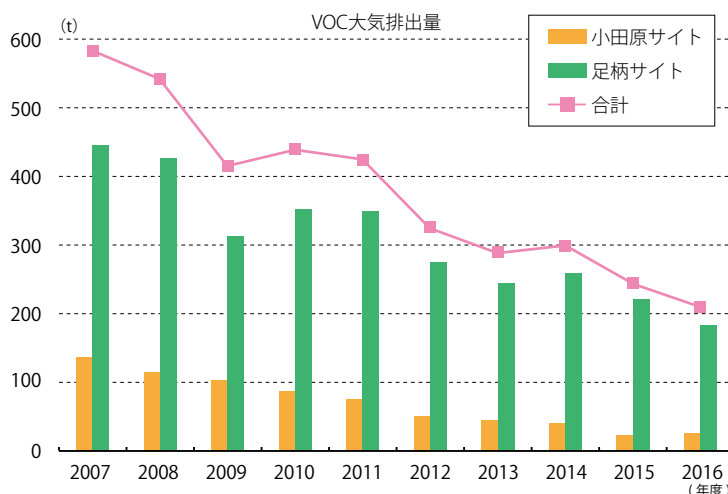
大気 (Nox・ばいじん)

	項目	対象設備	単位	県条例排出基準	工場管理値	2014年度	2015年度	2016年度	
小田原サイト	総量規制	NOx (窒素酸化物)	Nm ³ /h	4.99	4.99	3.04	1.49	2.50	
	濃度規制	NOx (窒素酸化物)	ガスタービン	ppm	20	20	15	11	14
			1F貫流ボイラー	ppm	60	60	54	43	45
			3F貫流ボイラー	ppm	60	60	休止中	休止中	休止中
足柄サイト	総量規制	ばいじん	kg/h	13.63 (総量)	13.00 (総量)	0.05 未満	0.085	0.06 未満	
		NOx (窒素酸化物)	Nm ³ /h	23.48 (総量)	21.20 (総量)	2.8	3.3	3.3	
	濃度規制	ばいじん	7号ボイラー	mg/Nm ³	50	50	1 未満	1 未満	1 未満
			NOx (窒素酸化物)	7号ボイラー	ppm	50	50	32	26

総量規制の数値は最高値、濃度規制の数値は平均値です

揮発性有機溶剤 (VOC) 大気排出量の削減

神奈川事業場ではVOC大気排出量の削減に取り組んでいます。2016年度も老朽化設備の更新や工程改善などを行い、事業場全体として排出量を削減することができました。



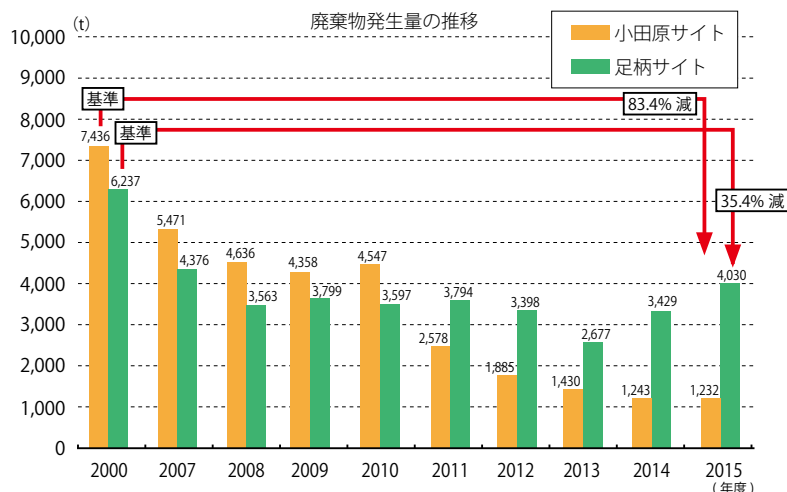
VOC 排出濃度規制への対応

小田原サイト21施設、足柄サイト7施設の排出口での濃度測定を行い、規制値以下であることを確認いたしました。

廃棄物の管理

神奈川工場では、廃棄物削減活動に取り組んでいます。ゼロエミッション活動を開始した2000年度を基準に、2016年度は、小田原サイトが83.4%、足柄サイトが35.4%の削減率となっています。

足柄サイトは2013年度以降、発生量が増加傾向にありますが、これは2012年度に製造開始した新製品が年々増産されているためです。そこで、生産規模に対して、廃棄物排出量が適切かを判断する為の新たな指標を検討しています。



水質

河川放流系

主な項目	法規制値	小田原サイト				足柄サイト				
		県条例値	工場管理値	2015年度	2016年度	県条例値	工場管理値	2014年度	2015年度	
水素イオン濃度 (pH)	-	5.8～8.6	5.8～8.6	5.9～8.5	8.0	7.9	5.8～8.6	5.9～8.5	8.1	8.1
生物化学的酸素要求量 (BOD *1)	mg/L	160	60	50	1	1未満	25	20	1未満	1未満
化学的酸素要求量 (COD *2)	mg/L	160	60	50	1未満	1未満	25	20	1未満	1未満
浮遊物質 (SS)	mg/L	200	90	75	1未満	1未満	70	50	5未満	5未満
大腸菌群数	個/cm3	3000	3000	300	10以下	10以下	3000	300	10	10
ノルマルヘキサン抽出物質含有量 (鉱油類含有量)	mg/L	5	5	4	1未満	1未満	5	5	0.5未満	0.5未満
銅含有量	mg/L	3	3	1	0.05未満	0.05未満	1	0.3	0.05未満	0.05未満
亜鉛含有量	mg/L	2	2	1	0.02未満	0.06	1	0.3	0.1未満	0.1未満
溶解性鉄含有量	mg/L	10	10	5	0.05未満	0.05未満	1	0.5	0.1未満	0.1未満
溶解性マンガン含有量	mg/L	10	1	0.5	0.02未満	0.02未満	1	0.5	0.1未満	0.1未満
クロム含有量	mg/L	2	2	1	0.05未満	0.05未満	1	0.5	0.1未満	0.1未満
六価クロム化合物	mg/L	0.5	0.5	0.2	0.05未満	0.05未満	0.5	-	-	-
ジクロロメタン	mg/L	0.2	0.2	0.1	0.002未満	0.002未満	0.2	0.16	0.02未満	0.02未満
シアン	mg/L	1	1	0.8	0.05未満	0.05未満	0.5	0.3	0.05未満	0.05未満
ニッケル含有量	mg/L	-	1	0.5	0.05未満	0.05未満	1	-	-	-
フェノール類	mg/L	5	0.5	0.2	0.05未満	0.05未満	0.05	0.03	0.01未満	0.01未満
ふっ素	mg/L	8	8	6	0.1未満	0.1未満	8	6	0.2未満	0.2未満
カドミウム	mg/L	0.1	0.1	0.08	0.003未満	0.003未満	0.05	0.01	0.01未満	0.01未満
鉛	mg/L	0.1	0.1	0.08	0.05未満	0.05未満	0.1	0.06	0.01未満	0.01未満
セレン	mg/L	0.1	0.1	0.08	0.005未満	0.005未満	0.1	0.08	0.01未満	0.01未満

*1. BODとは水中の汚れ (主に有機性汚濁物質) が微生物によって酸化されるときに消費される酸素の量を指します。
 *2. CODとは水中の汚れ (主に有機性汚濁物質) が酸化剤によって酸化されるときに消費される酸素の量を指します。

地下水水質

工場内外に、小田原サイトでは9ヶ所、足柄サイトでは16ヶ所、観測井を設置し定期的にモニタリングしています。

主な項目 (単位: mg/L)	法定浄化基準 および県条例基準	小田原サイト			足柄サイト		
		工場管理値	2015年度 (測定9箇所)	2016年度 (測定9箇所)	工場管理値	2015年度 (測定16箇所)	2016年度 (測定16箇所)
カドミウム	0.01	0.01	0.005未満	0.005未満	0.005	0.005未満	0.005未満
全シアン	検出されないこと	検出されないこと	検出されず (0.005未満)	検出されず (0.005未満)	検出されないこと	検出されず (0.1未満)	検出されず (0.1未満)
鉛	0.01	0.01	0.005未満	0.005未満	0.01	0.005未満	0.005未満
六価クロム	0.05	0.05	0.01未満	0.01未満	0.01	0.01未満	0.01未満
砒素	0.01	0.01	0.005未満	0.005未満	0.01	0.005未満	0.005未満
総水銀	0.0005	0.0005	0.0005未満	0.0005未満	0.0005	0.0005未満	0.0005未満
アルキル水銀	検出されないこと	検出されないこと	検出されず (0.0005未満)	検出されず (0.0005未満)	検出されないこと	検出されず (0.0005未満)	検出されず (0.0005未満)
PCB	検出されないこと	検出されないこと	検出されず (0.0005未満)	検出されず (0.0005未満)	検出されないこと	検出されず (0.0005未満)	検出されず (0.0005未満)
ジクロロメタン	0.02	0.02	0.0005未満	0.0005未満	0.015	0.0005未満	0.0005未満
四塩化炭素	0.002	0.002	0.0005未満	0.0005未満	0.002	0.0002未満	0.0002未満
1,1,1-トリクロロエタン	1	1	0.0005未満	0.0005未満	0.001	0.0005未満	0.0005未満
トリクロロエチレン	0.03	0.03	0.0005未満	0.0005未満	0.001	0.0005未満	0.0005未満
テトラクロロエチレン	0.01	0.01	0.0005未満	0.0005未満	0.001	0.0005未満	0.0005未満
ベンゼン	0.01	0.01	0.0005未満	0.0005未満	0.01	0.0002未満	0.0002未満
セレン	0.01	0.01	0.005未満	0.005未満	0.01	0.005未満	0.005未満
硝酸性窒素および亜硝酸性窒素	10.0	10.0	2.1	2.8	10.0	1.8	1.9
ふっ素	0.8	0.8	0.1未満	0.1	0.8	0.2未満	0.2未満
ほう酸	1	1	0.1未満	0.1未満	1	0.1未満	0.1未満

PRTR 調査結果

PRTR 対象物質・自主管理化学物質データ (2016年度)

単位: t / 年

対象物質名	政令指定番号	排出量				移動量
		大気	前年との差異	水域	土壌	
小田原サイト	アセトニトリル	13	0.0	-0.0	0.0	1.1
	銀及びその水溶性化合物	82	0.0	0.0	0.0	0.0
	コバルト及びその化合物	132	0.0	0.0	0.0	0.1
	ジクロロメタン	186	0.0	0.0	0.0	0.1
	トリエチルアミン	277	0.0	0.0	0.0	30.7
	トルエン	300	0.1	0.0	0.0	0.6
	ヒドラジン	333	0.0	0.0	0.0	0.0
	n-ヘキサン	392	0.1	0.1	0.0	2.1
	りん酸トリフェニル	461	0.0	0.0	0.0	5.9
	足柄サイト	アセトニトリル	13	0.1	0.0	0.0
エチレンジアミン四酢酸		60	0.0	0.0	0.0	0.0
銀及びその水溶性化合物		82	0.0	0.0	0.0	0.9
クロホルム		127	0.3	0.0	0.0	1.1
ジクロロメタン		186	42.4	-17.2	0.0	214.3
セレン及びその化合物		242	0.0	0.0	0.0	1.1
トルエン		300	0.1	-0.4	0.0	0.8
ヒドロキノン		336	0.0	0.0	0.0	0.0
n-ヘキサン		392	0.0	-1.0	0.0	1.8
メチルナフタレン		438	0.0	-0.3	0.0	0.0
りん酸トリトリル	460	0.0	0.0	0.0	0.0	
りん酸トリフェニル	461	0.0	0.0	0.0	2.4	

* PRTRとは環境汚染物質排出移動登録 (Pollutant Release and Transfer Register) の略で、化学物質を製造・使用する事業者が自主的に環境への排出量を把握・管理する仕組みのことです。

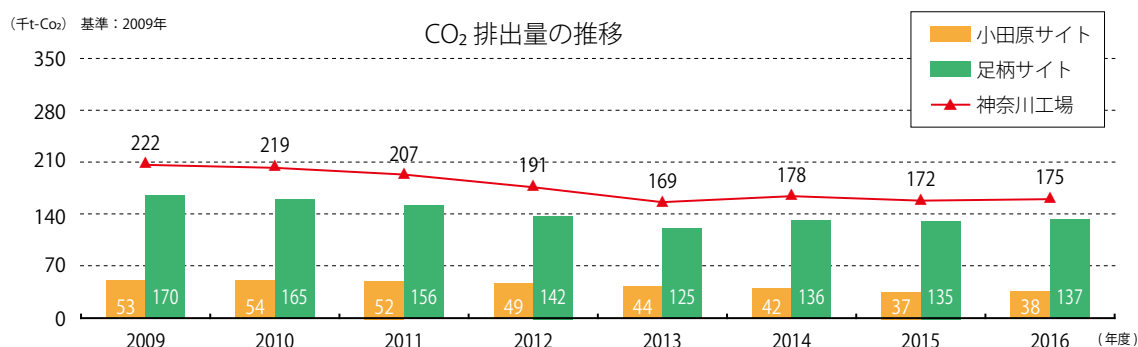
省エネルギー・CO₂排出量の削減

神奈川工場は2013年度よりエネルギー戦略推進委員会を発足させ、工場をあげて省エネ活動を積極的に行いCO₂の排出量削減と省エネに取り組んでいます。2016年度からは省エネ広報誌を発行し、工場の全従業員に向けて省エネ啓蒙活動の強化を図っています。その結果2016年度のエネルギー原単位は対前年比7.6%良化しました。

また、政府が推進している電力のデマンドレスポンス（電力需給逼迫時に電力会社の要請に応じて購入電力を削減する取り組み）の実証試験に参加し、電力安定供給に貢献しています。

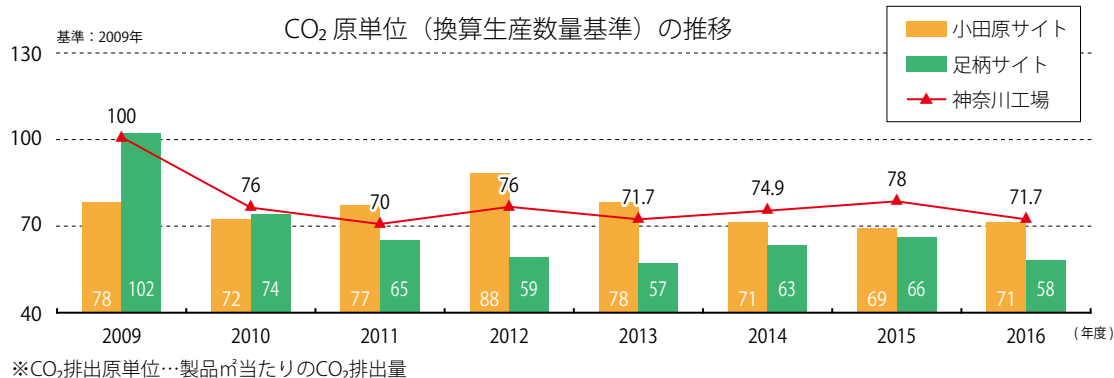
CO₂ 排出量の削減

神奈川工場は2009年比 約21% 低減しました。



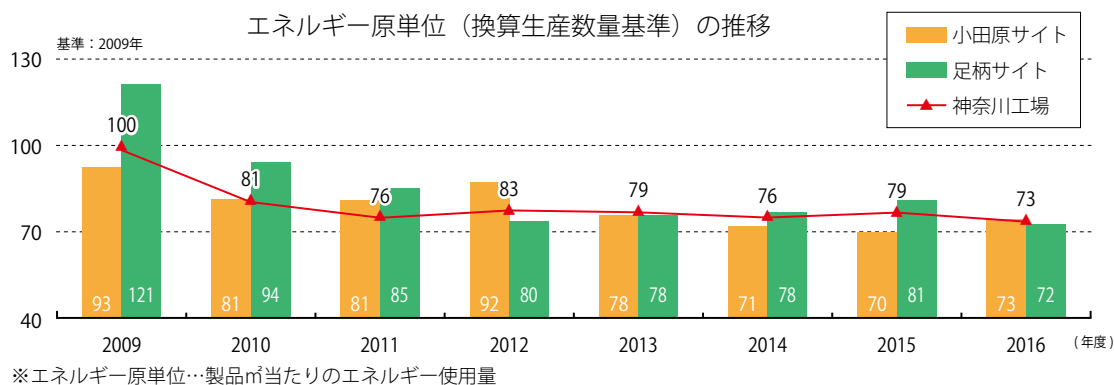
CO₂ 排出原単位の改善

神奈川工場は2009年比 約28% 良化しました。



エネルギー原単位の改善

神奈川工場は2009年比 約27% 良化しました。



地域とのコミュニケーション

従業員の積極的なボランティア活動参加などによる地域との共生、社会への貢献を大切にしています。

清掃活動への参加

「クリーンさかわ」への参加 5月

小田原市自治会連合主催による美化運動に市民や様々なボランティア団体の方々と一緒に参加し酒匂川流域の清掃作業を行っています。



「山王川・久野川」の清掃 6月

小田原市および山王川・久野川流域自治会主催による河川の清掃作業を自治会の方々と一緒に行っています。



「春木径・幸せ径」の草刈 6月・8月

春木径奉仕会主催による南足柄市狩川土手の草刈を近隣住民の方々・様々なボランティア団体のみなさんと一緒に行っています。



工場周辺の美化清掃活動 随時

工場係長会による美化清掃活動を実施しています。



従業員による地域とのかかわり

「環境フェア」への参加 6月

南足柄市役所で開催される環境フェアに参加し工場の環境活動について見学に訪れる小学生にもわかりやすく説明しています。



自治会環境説明会 11月

神奈川工場周辺の自治会の皆様へ事業場の環境への取り組みを説明し意見交換を行っています。



「小田原市出初式」への参加 1月

新春恒例小田原市消防出初式に参加しています。



◆対象組織◆

富士フイルム株式会社神奈川工場 および

当工場敷地内のすべての関連組織、グループ会社が対象

神奈川工場

イメージング材料生産部

事務部

主な関連組織

ディスプレイ材料事業部生産部

ディスプレイ材料研究所

ファインケミカル事業部生産部

有機合成化学研究所

高機能材料研究所

記録メディア事業部生産部

記録メディア研究所

解析技術センター

生産技術センター

主なグループ会社

富士フイルムフォトマニュファクチャリング株式会社

富士フイルムメディアマニュファクチャリング株式会社

富士フイルムオプトマテリアルズ株式会社

富士フイルムビジネスエキスパート株式会社

富士フイルムエンジニアリング株式会社

FUJIFILM
Value from Innovation

富士フイルム株式会社

神奈川工場

小田原サイト

〒250-0001 神奈川県小田原市扇町 2-12-1

足柄サイト

〒250-0193 神奈川県南足柄市中沼 210

■環境データ対象期間

2016年度 (2016年4月～2017年3月)

本レポートに関するご意見・お問い合わせは下記までお願い致します。

富士フイルム 神奈川工場 事務部 環境安全グループ

TEL: 0465 (73) 6090

FAX: 0465 (73) 6909

発行 2017年7月

次回発行予定 2018年7月